ファッションを演奏する

主催　野木青依
日程　令和４年11月18日(金)～20日(日)
会場　釜浅商店 庖丁売場４階 イベントスペース 台東区松が谷 2-24-1

この企画は、服の”もと”である「型紙」や「布」を、「楽譜」と捉えて音楽をつくり、マリンバで生演奏するという試みです。
「布」の模様から音・リズムを読み解き、生まれたメロディーをその場で録音・ループ再生させて音楽を作り上げたり、観客が「型紙」を使って楽譜を制作したり、それを野木青依さんが直ぐに演奏する等、即興性の高いパフォーマンスとなりました。

●概要●

会期　令和4年11月18日(金)～20日(日)

会場　釜浅商店 庖丁売場4階 イベントスペース
（台東区松が谷2-24-1）

●開催の様子●

❖ 布の模様から音楽をつくる ❖

演奏者の野木青依さんが着用しているカーディガン。最初に披露されたのは、このカーディガンの模様から音楽を読み解いて演奏するというものです。このカーディガンに使われている布には、『＜5cm×4cm の範囲＞で＜ループ＞している』という模様の特徴が読み取れて、これを“楽譜”と捉え、この『＜5cm×4cm の範囲＞』をリズム・音に変換しながら、メロディーを生み出して奏でていく。さらには、その奏でた音がその場で録音されていて、その音源を＜ループ再生＞させながら、生演奏と重ねていきます。

観客 1 人 1 人には、カーディガンの布の端切れとその模様をリズム・音に変換した図が配布され、演奏途中に「五線譜・音符がないものからどうやって音楽を読み取ったのか」「何故この演奏が生まれたのか」といった説明や演奏者の思いなどのお話も聞くことができました。

❖ 型紙から音楽をつくる ❖

続いては、カーディガンの下の白シャツの型紙が楽譜となって音楽を奏でる“もと”となっていきます。観客が座るテーブルには、「右前身頃」と「襟」を構成するパーツの型紙が入った封筒が用意されていました。観客は、その型紙を「襟」を「右前身頃」の裾の部分に置いてみたり、立てて置いてみたり、「右前身頃」から離しておいてみたり・・・。型紙上の記号や線と、小野龍一氏による「音の指示書」を照らし合わせながら、思い思いの位置に配置していきます。観客が“型紙を置くこと”で楽譜が完成します。

演奏者とマリンバが各テーブルに歩み寄り、出来上がった楽譜を演奏者が解読し、演奏しました。演奏前には、その楽譜を見ながら、「ここのメロディーは、だんだん速くなりながら音が高くなる」「この辺で一旦休止が入る」「ここは長い音を演奏する」などの解読の説明のあと、生演奏が始まります。

「右前身頃」の型紙から「襟」の型紙が大きくはみ出すように配置された楽譜では、テーブルを叩く、観客に演奏してもらう、観客の体で演奏する、床に寝る…など、「音楽からはみ出す」ようなパフォーマンスで、観客の予想を超えるものとなりました。この間、小野龍一氏によってミシンを使う音を録音、再構成して制作された「背景の音楽」がスピーカーから流れていました。

❖ 色から着想を得て即興演奏 ❖

マリンバの後方に吊られた布が何色に見えるか･･･。その色から何を連想するか･･･の話のあとに始まった即興演奏。
同じ色でも、その時々によって感じ方や連想するものが変化するようで、
例えば･･･

- ✧ *「深い青」*と感じ、それから「海に潜る」ことを連想した公演回には低音で水中で聴くようなくぐもった音を表現
- ✧ *「夕方と夜の間の青」*と感じ、「部活動の帰り道」を連想した公演回では、ノスタルジックな演奏

このように毎公演違う演奏内容となったようです。
そして、その青い布はワンピースとなり･･･

❖ ファッションを演奏する ❖

演奏者がワンピースを着用すると再び「背景の音楽」が流れはじめ、重ねるように即興演奏が始まりました。さらに演奏者がカーディガンを着ると最初に布の模様をもとに演奏された音源が流れはじめ、それぞれが重なり合います。
カーディガン、白シャツ、ワンピースを「重ね着」をしてファッションを楽しむかのように、3種の音楽が重なりあって演奏会は終了しました。